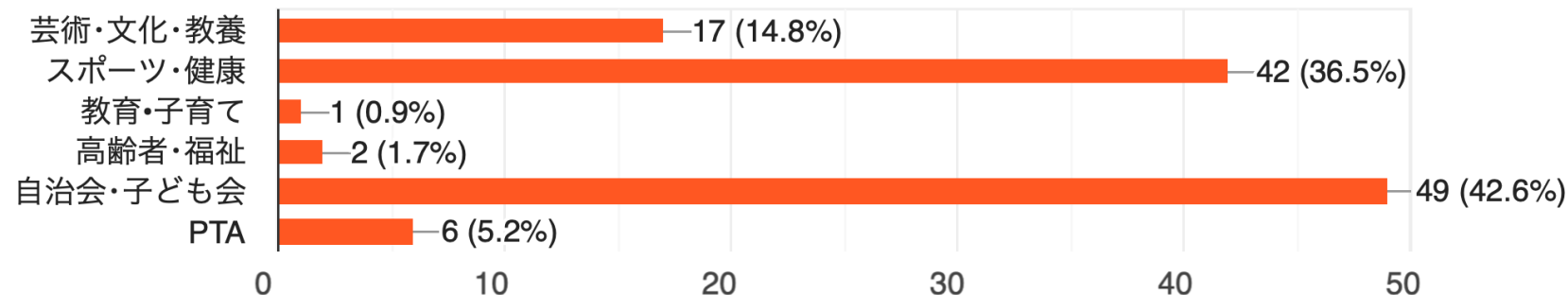


# コロナ禍における社会教育活動アンケート結果

アンケート実施期間:令和2年11月10日(火)~12月15日(火)  
対象:町内 地域・サークル活動関係者 (代表者に限りません)  
回答数:115件

## あなたの活動分野は(複数回答可)

115 件の回答



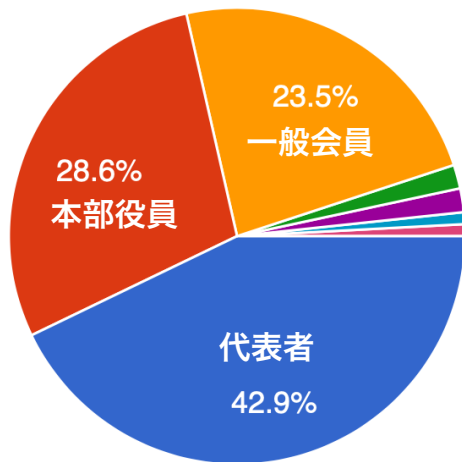
### その他の回答(1人)

地域活動振興員  
青少年指導員  
消防団  
音楽活動  
地域支援  
社会活動  
不明

生涯学習系の活動は、「芸術・文化・教養」系で15%、「スポーツ・健康」系が36.5%で51.3%で半数を占める。  
残りは、自治会・子ども会の地域活動は42.6%、PTA、教育・子育て、高齢者・福祉といった対象が明確な活動が8%で、地域社会教育活動とすれば半数になり、本調査はバランスよく回答が集まっていると考える。

## あなたの役職は(以下、主たる活動でお答え下さい)

115 件の回答

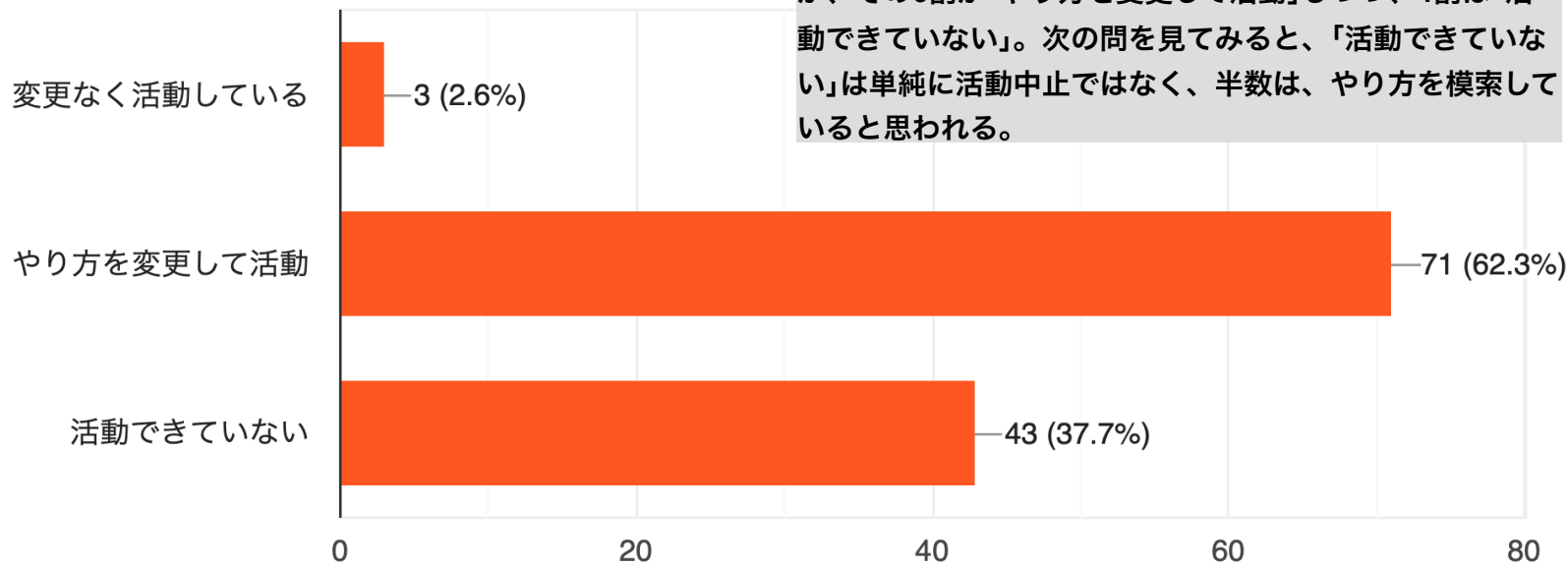


- 51人 42.9% ● 代表者
- 34人 28.6% ● 本部役員
- 28人 23.5% ● 一般会員
- 2人 1.7% ● 会社員
- 2人 1.7% ● 不明
- 1人 0.8% ● 青少年指導員
- 1人 0.8% ● 生涯学習委員、自治会役員

回答者の7割が団体の代表者・本部役員で、一般会員にも回答をいただいている。

## 新型コロナウイルス感染症の活動への影響は

114 件の回答

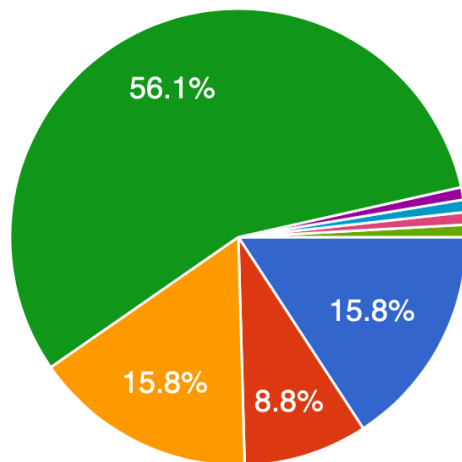


変更なく活動しているのは3%弱にとどまり、すべてが生涯学習活動である。95%以上が何らかの影響を受けているが、その6割が「やり方を変更して活動」しつつ、4割は「活動できていない」。次の問を見てみると、「活動できていない」は単純に活動中止ではなく、半数は、やり方を模索していると思われる。

## 年間活動への影響は

114 件の回答

自由記述も加えると6割近くが「活動・行事ごとに検討している」と答えている。「計画を組み直した」との回答を加えると、7割が検討・判断を重ねながら活動している。年度内もしくは年内いっぱいの活動を中止したとの回答が4分の1にとどまっている。前問で4割に及んだ「活動できていない」との回答より下回っており、総じて感染状況を見ながら対応している状況が浮かび上がってくる。活動毎検討と一定期間中止の違いは活動分野とは直接関係していないと見られる。



- 18人 15.8% ● 年内の活動を中止
- 10人 8.8% ● 年度内の活動を中止
- 18人 15.8% ● 計画を組み直した
- 64人 56.1% ● 活動・行事ごとに検討している

### 「活動・行事ごとに検討している」に近い記述(3件)

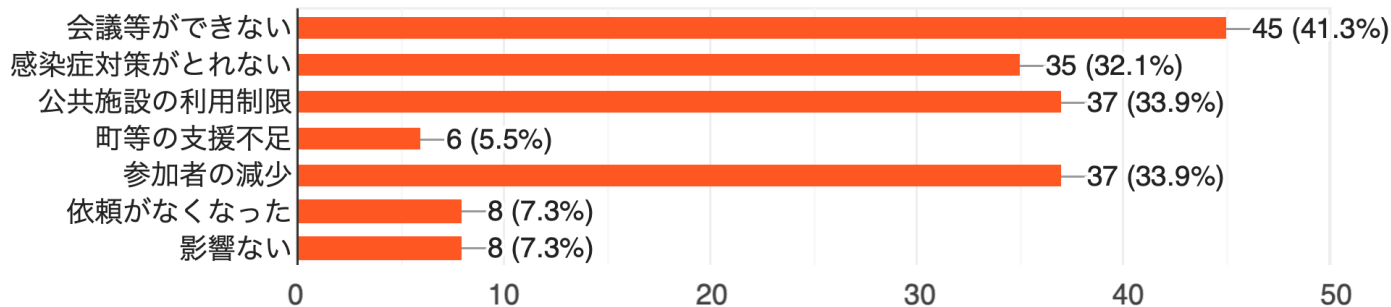
- ・ イベントは全て中止となったが、基本練習は可能
- ・ 県の行事、大会は中止
- ・ 人数制限。時間短縮。

### 「計画を組み直した」に近い記述(1件)

- ・ 計画を組み直し活動ごとに検討している

## 新型コロナウイルス感染症に伴い、活動に影響しているものは(複数回答可)

109件の回答



### その他の回答(自由記述)

#### 会議等ができないに近い記述①(活動の縮小)5件

- ・ 感染症対策しながらのため、活動の幅に制限が発生している(参加者の人数制限・飲食を伴う活動はできないなど)
- ・ 慰労会、懇親会等が出来ない
- ・ 行事の中止、規模縮小、企画変更
- ・ イベント系の事業ができない状況
- ・ 自粛要請

#### 会議等ができないに近い記述②(選択的活動)3件

- ・ 会議の減少(年6回の組長会議が4回に) 納涼祭中止、新年会中止、歩け歩け紅葉の集い実施済み、どんど焼き・令和3年3月総会実施予定活動を含め最少人数にて行動しています。
- ・ 体温管理して活動しています。

#### その他2件

- ・ 指導者、主催者側が責任をとれない不安で開催できない
- ・ 命/会社倒産等に影響の為、確たる判断ができない。

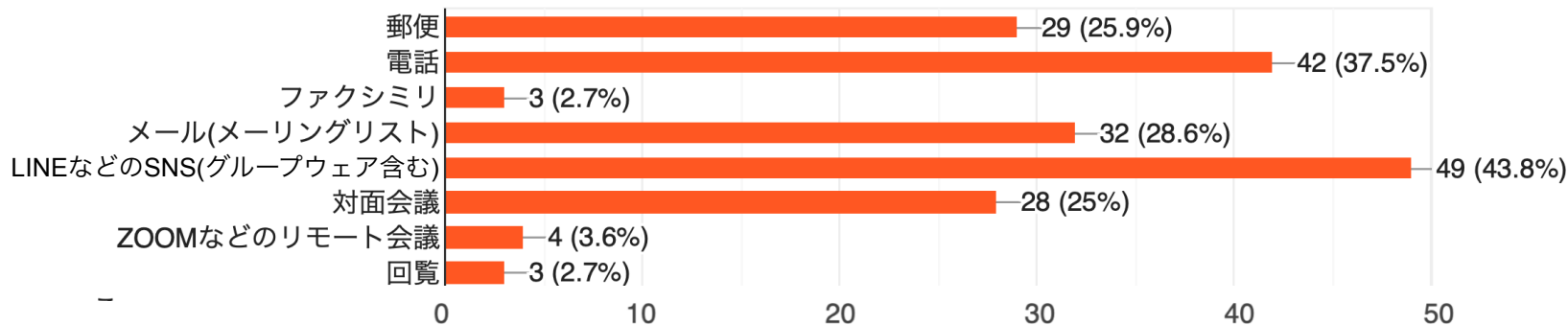
「影響ない」とする回答は1割に満たない。

「感染症対策がとれない」は、どの活動も抱えている課題だが、活動分野と重ねると「会議等ができない」とする活動は「自治会・子ども会」の地域社会活動が多い。一方「参加者の減少」、「公共施設の利用制限」の課題は生涯学習活動からの声となっている。活動場所の利用制限と「町等の支援不足」を関連付ける傾向は見られない。感染状況を受け止めていると思われる。

依頼がなくなったのは発表型の文化団体や自治会・子ども会以外の地域活動である。

## 現在の連絡方法・会議方法は(複数回答可)

112件の回答



### その他より(自由記述まとめ)

#### • 対面会議に近い内容3

- 三密を避けた対面会議、及び、回議（文書回覧による承認作業）
- 手洗い、消毒、ソーシャルディスタンス、換気を守ってマスクをしての会議を行っている。
- 3役、組長に資料を配布して集まっていた。手指消毒、マスク着用、換気等を行い、なるべく少人数にて会議も短く1時間程で終了

#### • 回覧に近い内容4 (回覧板,回覧で会議中止の連絡をしている,回覧板の活用,文書、回覧)

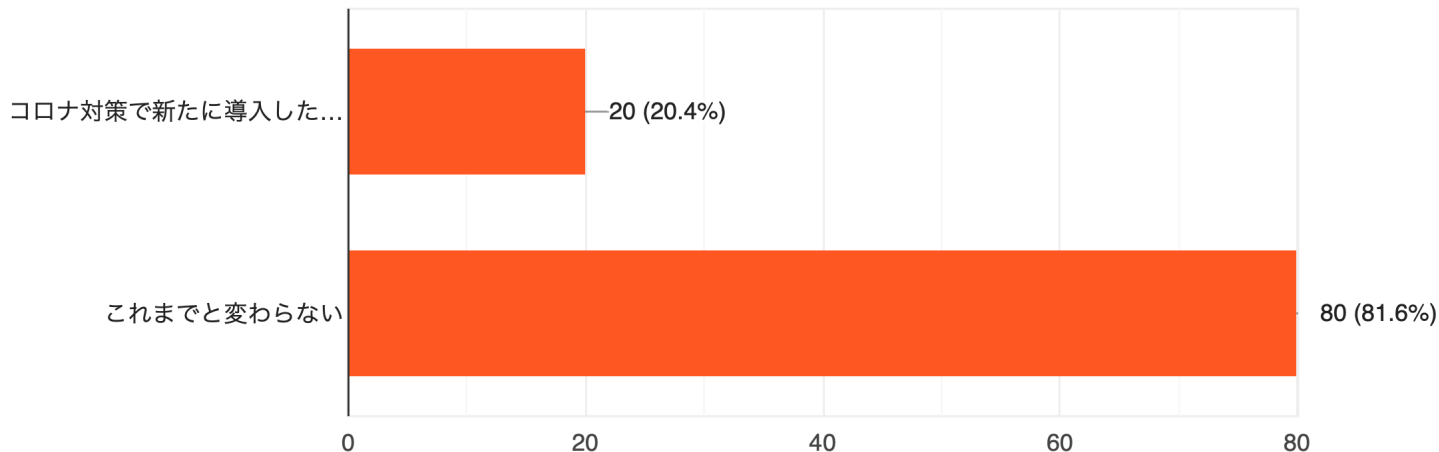
#### • 資料配布4 (資料の配布,お知らせ(文章)等で通知,文書で届ける,こどもを通して配布してもらっている)

#### • 意見集約の工夫2 (アンケート方式で,回議（文書回覧による承認作業）)

分析は次問で

## その連絡方法は

98件の回答

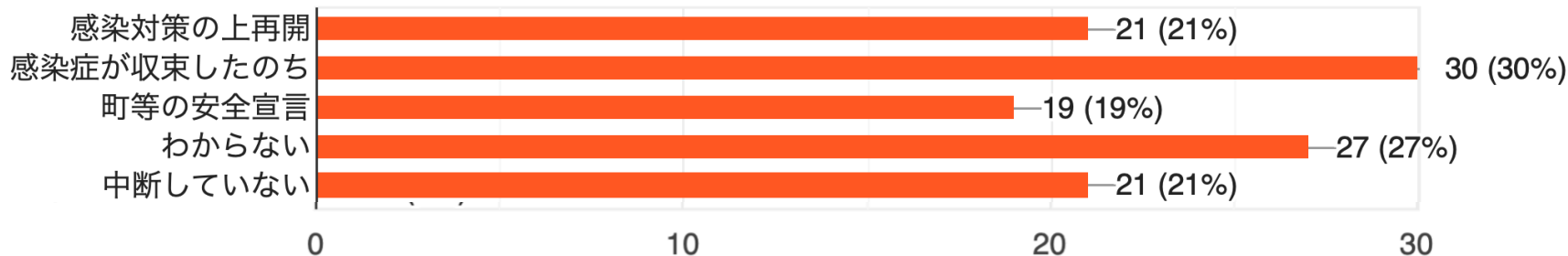


人との接触そのものを減らさなければならないという制限の中で、どのようにコミュニケーションを図っているだろうか？自治会等なら回覧板、またメールなど、従前から利用してきたものも継続して活用されているが、活動分野は問わず、LINEなどのSNSサービスと(グループウェア含む)の利用が、従来の電話やメールを超えている。またこうしたサービスの利用はこのコロナ対策で新たに導入した手段の半数を締めている(メールがそれに続いている)。

感染症対策を十分に意識しながら、対面会議も手段として用いられている一方で、ZOOMなどのリモート会議は限定的である。その呼びかけには書面配布で人力に頼っている。

# 活動再開の見通しは

100 件の回答



## 「感染対策の上再開」に近いもの3

- ・ 10月頃から感染対策をしたうえで徐々に再開
- ・ 部分的に中止しているものは感染状況を見ながら再開を検討
- ・ 感染予防処置を図りながら可能な活動を行っている

## 「中断していない」に近いもの2

- ・ 体温管理して
- ・ できる範囲で活動している

## その他(自分たちの判断)2

- ・ 一時中断し再開
- ・ 可能と判断した場合

## その他(ワクチン開発等)2

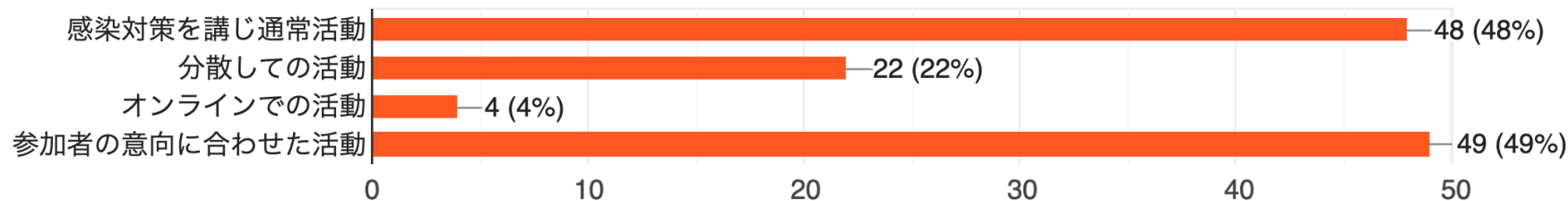
- ・ ワクチンの開発、国の安全宣言がでたら
- ・ 感染の状況によりワクチンの開発が早まれば

25%が年内もしくは年度内の活動を中止しており、部分的であっても75%が活動を再開しているが、模索は続いていると思われる。「わからない」が「感染対策の上再開」を上回っているのはその証左だ。「中断していない」のは生涯学習活動系の活動。その一方で、「感染症が収束したのち」、「町等の安全宣言」の上とするのは活動分野を問わない。



## 活動再開に向け、工夫していくことはなんですか(複数回答可)

100件の回答



### その他の回答(自由記述)

#### 「感染対策を講じ通常活動」に近い記述(4件)

- ・ ソーシャルディスタンス、三密の回避
- ・ 対策を実行しつつ参加者の理解
- ・ ガイドラインを通して組長会へ提案(他1件)

#### 「分散しての活動」に近い記述(2件)

- ・ 野外での活動は密を避けて実施
- ・ 少数で活動している

#### 「参加者の意向に合わせた活動」に近い記述(1件)

- ・ 参加は個人の自主判断

#### その他(1件)

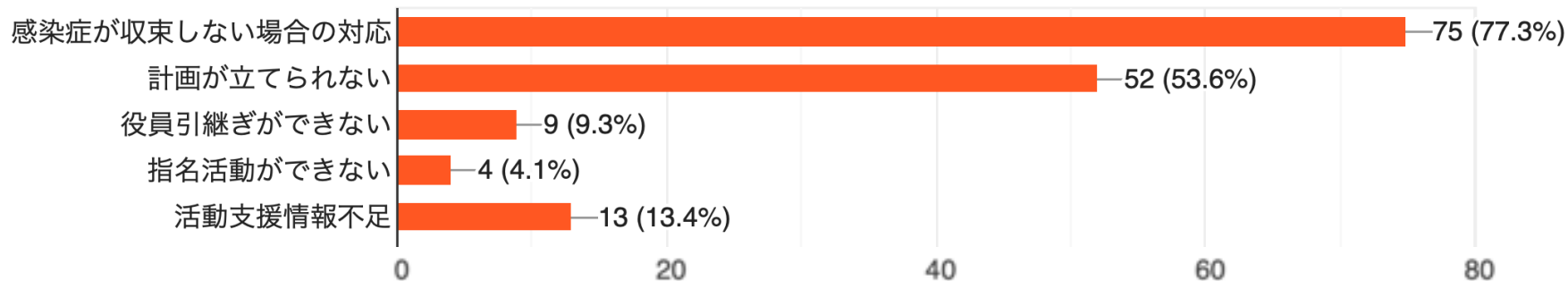
- ・ 目処が立っていない判断ができない。

どうしたら活動が再開できるか？特徴的なのは、分散やオンラインを含めた「感染対策を講じた上での活動」と同様に、「参加者の意向に合わせた活動」が重要視されていることである。

活動には参加者、構成員の理解が不可欠であるとの意識が強いと思われる。

## 来年度の活動で抱えている課題はなんですか(複数回答可)

97件の回答



その他(自由記述)

最大のイベントである里山俳句大会をどうするか（実施の方向で年度計画を立てる）

参加者の減少は団体の存続にかかわり、致命的な課題

参加者の減少

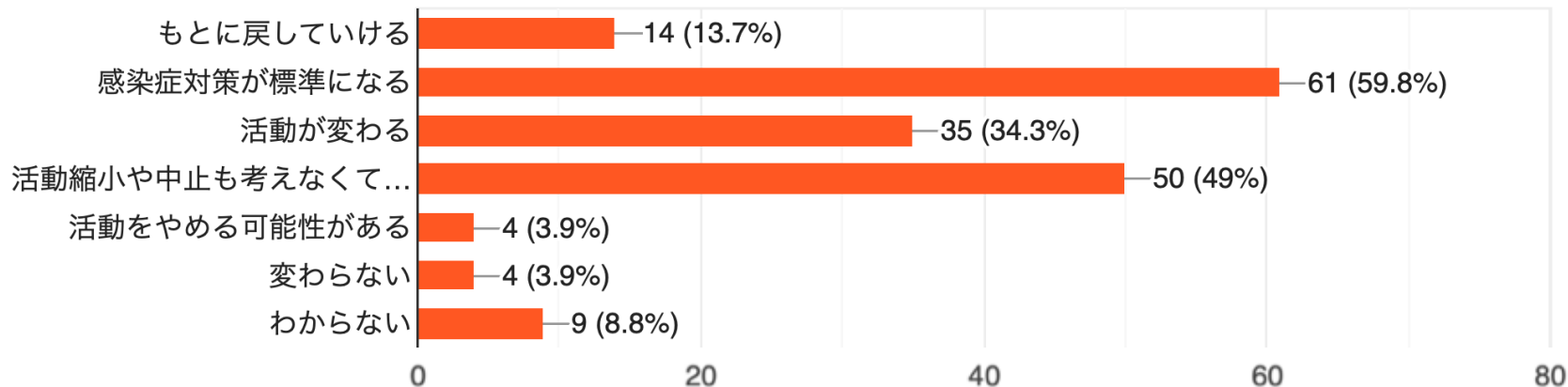
活動縮小での競技レベル、体力の低下が防げない

特になし

新型コロナウイルス感染症の影響が長引いている。アンケート締め切り後ではあるが、再び緊急事態宣言が発せられた。役員引き継ぎや指名活動等の人的側面より、来年度の活動そのものへの影響を懸念する声が8割近くにも及んでいる。また、現状では「町の支援不足」に声は集まらなかったが、「活動支援情報不足」はここでは倍増してる。事態が長引くにつれ、情報提供が不可欠になってくるのが予想される。

## コロナ以降の社会教育活動はどうなると思いますか(複数回答可)

102件の回答



### その他(自由記述)

しばらくは対策が標準となり、数年後には元に戻して行ける  
柔軟に付き合いながら継続したい  
見直しが必要と感じる

コロナ以降について聞いた。「感染症対策が標準になる」との意見が6割で「もどに戻していける」を大きく上回っている。ついで多いのが、活動の縮小や中止を考える意見で、半数近い。活動をやめる可能性やわからないも含め、活動分野にかかわらず、抱えている問題である。これからの活動が新型コロナウイルス感染症の影響により、描きにくい状況が続いている。自由記述でその点をさらに考えていきたい。

## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

### コロナ禍の社会教育活動

新型コロナウイルス感染症の国内初の感染者が出てからすでに一年を経過した。世界で多くの犠牲者を出し、ワクチンが急ピッチで開発される一方、変異株の存在も明らかになる中、県内では2度目の緊急事態宣言の最中である。本アンケートは、この緊急事態宣言前の第3波の懸念が強まり出した中の調査であり、その段階にあっても、社会教育活動と新型コロナウイルス感染症の関わりについての多様な意見が寄せられている。ここでは、最後の問いへの自由記述を通して、本町の社会教育関係者の思いと、抱えている課題とそれへの提言を見ていきたいと思う。

なお、本稿での社会教育活動とは、社会教育法における社会教育に基づき、学校教育ではない、町内の組織的教育的活動を指し、自治会や生涯学習活動、PTAや子ども会活動なども含みます。

### 感染対策の上での活動

「コロナが収束しないと発表の場や発表の機会が有りません(8)」社会教育活動も、新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けた。これに対し、「難しい対応が続くかもしれませんが、対策を取りながら、できることから再開すべきだと思う(25)」という思いが、多くの人の根底にあると思われる。ワクチン接種や治療薬の開発などを注視しながら、感染対策の上で共存という視点が最も多い意見だ(9人)。

その上で「常に感染対策を講じ(33)」る、また「規模を縮小して活動を継続する(34)」といった取り組みが必要になるし、こまでの回答を見ても、多くの団体がコロナ下での活動再開に取り組んでいる。

## 「自粛」がもたらしたもの

いわゆる「自粛」がもたらす、影響は、個人個人や人のつながりにも及んだ。

「運動や健康活動の機会が減少し、基礎体力や免疫力の低下が気になります(40)」、「心身の健康のために、人とのつながりを大切に続けてゆきたい。無理せず、あきらめず、上手に付き合っけてゆきたい(23)」。

町内は町民の不断の努力により、感染は比較的抑えられてきた。だからこそ、「大会はソーシャルディスタンスを保ち、マスクをしてプレーすればできたのではないか?(21)」と活動の自粛の度合いが適切だったのか?という思いも出ざるを得ない。

「町としても町民にPCR検査を指導した方がよいと思う（現在陽性者がいるか不明のため）（必要以上に活動が制限されているかもしれない）(47)」

## 主催する側の複雑な思い

しかし、新たな感染症の前に、活動を主催する側も思いは複雑だ。

「個人的にはもとに戻したいが、年代や持病により影響が違うので難しいと思う(32)」、「団体行事でどうしても3密になり参加者には高齢者の方も多くおります。よってコロナ感染が終息しないと活動は難しいと思っております(5)」。

また、「地区の皆さんの活動に対する理解が得られない可能性がある(20)」と終息まで活動が難しいという意見も少なからずある。

「何時、何処で、どの様に新型コロナウイルスに感染するか不明な状況下では、「命を守る」事が最優先される為、各種社会活動への計画・参加に対する地域の皆様からの賛同や協力等を得ることが困難です。(10)」。

主催者の思いだけで活動をすすめるのではなく、感染症の特質を見極め、メンバーや会員の理解や協力を得ながら、慎重に活動をすすめる姿が浮かび上がってくる。

## 主催者が求めるもの

だからこそ、「今後安全対策し活動を再開したが感染者が出てしまったで済むのであろうか…。責任が取れない(48)」、「今のような曖昧な対策ではとても不安で活動は難しいと思われ(57)」との声は切実だ。「指導者や主催者の責任負担の軽減(42)」に向けて、「責任者等には、感染症対策の勉強会が必要(24)」、また「再開時期、対応について多くの意見交換のできる場を設けて(56)」という横のつながりを求める声、「役場、教育委員会等の公の方針に従い、立案、推進が必要(55)」と、このアンケートで明らかになってきた実情を踏まえた包括的な対応策を求める提言もある。

## 関心の低下への懸念

自粛生活や活動縮小によって、コロナ後の社会教育活動を懸念する声もある。それは「収束後活動を再開しても、自治会員が行事に参加してくれるのか疑問と不安を感じる(11)」、「活動休止期間が長くなると、子供会への関心がさらに下がってしまいそうで不安(27)」といったものであり、「祭り盆踊りなどは感染対策をした上で、規模縮小、内容変更を加えながら考えて行かなければ伝承地域文化の消滅に繋がると危惧する自治会員が居ることは事実(44)」と、コロナ禍の影響が地域文化にも及ぶ可能性が指摘されている。

## コロナを通してみえてきたもの①活動の精査

一方で、コロナを通して見えてきたものがある。その一つが活動の精査である。

「町の会議について、紙面議決が今回実施できているので、町の会議の回数を減らして、負担をなくして頂きたい(4)」、「コロナ禍で縮小出来た活動などはコロナ終息後もPTAの負担軽減のためにも縮小したままでも良いのではないかと思います(18)」という声がそれだ。「人を集める講習、研修は精査し、削減すべき(45)」という視点がコロナ後にも求められている。

## コロナを通してみえてきたもの②創意工夫

もう一つは多様な創意工夫である。

「対面で活動できるものと、リモートまたは分散で活動するものに分ける必要がある(15)」、「zoom等オンラインによる活動など、新しい形を作れたらいい(19)」と新たな取り組みも模索されている。その中心には、何もできないではなく、何ができるかを求め続けることだ。

「イベントが全て中止になり、子供達が家庭で楽しめるプレゼント等を配布しています。withコロナで少しでも子供達が笑顔になればと思います(39)」

「戸沢村交流に関しては、交流はできないがオンラインでお互いの町や村を紹介したりはできるのではと思う。子供たちにもアイデアを募集してもいいのでは。何もしないことがいちばん簡単でリスクもないが、いろいろな前向きなアイデアを出し合うことも必要だと思う(30)」。

## 「正しく恐れて前向きに」-さらなる新たな日常へ

コロナ禍は終わっていない。また新たな一年が始まる。「2021年度も三役組長で活動しなければならないと思います(35)」と心配は絶えない。「この状況が来年も続くようだ自治会活動に対する不満が出てくるのではないか(13)」ということを見据えつつ、「コロナが収束すれば元に戻れる(37)」。いつか何らかの形でコロナを超えた、さらに新しい日常が訪れるだろう。

そのためには対策を怠らず、何が大事か、何ができるのかを、ともに活動する人との理解と協力の上で、取り組むことであり、活動を超えた情報共有、連携も、今後は求められてくるのではないか？

「正しく恐れて前向きに。通信句会等の創意工夫で楽しく継続する。基本はコロナ禍以前に戻ればベスト(29)」との声には多くの人が励まされる。

## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

1	無理しない
2	感染防止対策をしたうえで徐々に再開していく
3	どれだけ感染症対策をしても不安は常にあるため、先の見通しがつけづらい。
4	今まで、会長や副会長が出席していた、町の会議について、紙面議決が今回実施できているので、町の会議の回数を減らして、負担をなくして頂きたい。
5	自治会スポーツ担当は、主にパークゴルフ大会の計画運営等に関する業務になります。団体行事でどうしても3密になり参加者には高齢者の方も多くおります。よってコロナ感染が終息しないと活動は難しいと思っております。
6	コロナ禍の中での状況を把握しながら、コロナと共存しながら感染症対策を充分しての活動を考えております。
7	予防はしっかりして上手に付き合っていく。
8	コロナが収束しないと発表の場や発表の機会がありません
9	ワクチンだけでは完全に感染を防げる訳ではないし、ワクチンによる副作用も考えられるので、まだ1年位は現状が続くと思う。種々のガイドラインを守りながら、治療薬が開発される事を期待します。
10	何時、何処で、どの様に新型コロナウイルスに感染するか不明な状況下では、「命を守る」事が最優先される為、各種社会活動への計画・参加に対する地域の皆様からの賛同や協力等を得ることが困難です。
11	新型コロナの影響で自治会の行事が今年度に入ってほとんど中止になっている。収束の目途がたっていない状況である。収束後活動を再開しても、自治会員が行事に参加してくれるのか疑問と不安を感じる。
12	ワクチン等の処置が確実になることが前提で元に戻せる。但し、予防的な対策は定例となると思う。



## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

13	コロナ感染症がなかなか収束しない中、自治会の活動は行事毎に内容を検討し、中止、役員のみで実施、密を避け通常通り実施の3通りの形を選択した。結果、道普請やコサ切り等の仕事は実施出来たが、パークゴルフ大会や納涼祭、賀詞交歓会の会員相互の親睦を深める活動が出来ない。この状況が来年も続くようだと自治会活動に対する不満が出てくるのではないかと思う。
14	コロナ以降の状況がはっきりしていないので回答が難しい。コロナ禍での活動は感染防止対策が最優先。
15	対面で活動できるものと、リモートまたは分散で活動するものに分ける必要があると思われる。
16	社会教育活動とは何を指しているのか理解できていない。
17	一人の感染が複数的に増加し、命に係わるため、躊躇せざるを得ない。
18	コロナ禍で縮小出来た活動などはコロナ終息後もPTAの負担軽減のためにも縮小したままでも良いのではないかと思います
19	安全が確保され、安心して活動に参加できることが条件となる
20	現状では終息はほど遠いと感じる。ワクチン注射が一般的にならないと、地区の皆さんの活動に対する理解が得られない可能性がある。
21	パークゴルフ大会などはソーシャルディスタンスを保ち、マスクをしてプレーすればできたのではないかと？（代表選手の人数を少なくしたり。）
22	個の考えは色々ある為、世論に沿った活動でない出来ないと思います。
23	心身の健康のために、人とのつながりを大切に続けてゆきたい。無理せず、あきらめず、上手に付き合ってゆきたい。
24	比較的高齢者の参加が多い為、感染症対策には、気を使っているが十分な知識がなく不安である。責任者等には、感染症対策の勉強会が必要だと思います。

## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

25	難しい対応が続くかもしれませんが、対策を取りながら、できることから再開すべきだと思う。
26	正しく恐れて前向きに。通信句会等の創意工夫で楽しく継続する。基本はコロナ禍以前に戻ればベスト。
27	活動休止期間が長くなると、子供会への関心がさらに下がってしまいそうで不安。
28	コロナが完全に終息することがなさそうだから。
29	コロナ禍での活動はかなり難しいですが、zoom等オンラインによる活動など、新しい形を作れたらいいと思います。
30	戸沢村交流に関しては、交流はできないがオンラインでお互いの町や村を紹介したりはできるのではと思う。子供たちにもアイデアを募集してもいいのでは。何もしないことがいちばん簡単でリスクもないが、いろいろな前向きなアイデアを出し合うことも必要だと思う。
31	体調がよくない場合は活動を避ける。
32	個人的にはもとに戻りたいが、年代や持病により影響が違うので難しいと思う。
33	収束するにはかなりの時間がかかりそうに思います。常に感染対策を講じながら少しずつ活動を続けて行きたいと思います。
34	ワクチンや治療薬が完成すれば、インフルエンザと同様な考え方となり、活動も元に戻せると確信する。コロナ禍での活動は、感染予防を考えながら規模を縮小して活動を継続する。
35	コロナが収束しないかぎり2021年度も三役組長で活動しなければならないと思います。
36	リモートでの活動方法も充実させていこうと思っている。
37	コロナが収束すれば元に戻れる。
38	ウィルス自体が完全に無くなるとは考えにくくワクチンが出来たとしても感染防止対策をした上での活動に成ると考えます。

## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

39	イベントが全て中止になり、子供達が家庭で楽しめるプレゼント等を配布しています。withコロナで少しでも子供達が笑顔になればと思います。
40	感染症対策はもちろん必須ですが、運動や健康活動の機会が減少し、基礎体力や免疫力の低下が気になります。（特に高齢者、幼児）
41	自粛と休止　その他未定
42	高齢者を対象とした健康体操教室が主な活動なので参加者が不安を感じなくなることと指導者や主催者の責任負担の軽減が再開のポイントとなると考えています。
43	現在、様々な感染対策を実施していても収束する様子もない。クラスター感染も心配、家族の感染が増える傾向にあり、自治会の役員会議でも、高齢者が多く高齢者の感染重症化を心配し、会議参加をためらう意見もあり、活動の縮小や中止も対策の一部と思われるため、考えの中に入れておくべきです。
44	町の行事に合わせて自治会内行事をしている活動は町の再開に合わせて再開（対応）して行くと思われれます。自治会独自の活動は連絡方法は変わらないものの、活動内容の縮小（変更）または中止も考えていかねばならないと考えます。清掃活動のような町が中止しても地域の環境維持（田畑、道路、山林など）、有害鳥獣駆除等を考えれば独自に行き行かねばならないと組長レベルでは一致した考えです。祭り盆踊りなどは感染対策をした上で、規模縮小、内容変更を加えながら考えて行かなければ伝承地域文化の消滅に繋がると危惧する自治会員が居ることは事実です。
45	人を集める講習、研修は精査し、削減すべき
46	高齢者が増えるなかで、感染による健康への影響を考えると縮小、中止は仕方ないのではと思います。
47	町としても町民にPCR検査を指導した方がよいと思う（現在陽性者がいるか不明のため）（必要以上に活動が制限されているかもしれない）
48	今後安全対策し活動を再開したが感染者が出てしまったで済むのであろうか…。責任が取れない。

## 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書き下さい

49	感染対策をしながら現在活動出来ているので有難いです 早く収束しますように祈ります
50	早く終息する事を祈ります。
51	コロナ禍の基本 密を避けることで実施できることは、外での活動は考えています。諸ガイドラインを通して、できないのではなく、できる行事を考えていきたいです。自治会長として自治会の本部（活動）役員は共有しています。常に安心・安全を念頭に実施できる行事は実施する方向で組長会議へ提案をします。
52	終息までは、出来る範囲での継続と自粛。
53	会合等は隣との距離を空けて、窓を開けて空気の入替えが出来れば特に問題ないと思います。但し出席する場合は事前に体温を測って36.5度以上は欠席とした方がよいと思います。
54	正しく恐れて、前向きに活動していきたい。
55	役場、教育委員会等の公の方針に従い、立案、推進が必要
56	未知の感染症なので、様々な活動について強制はできない。ただし、ずっとこのまま活動を中止・縮小することも協会自体の衰退につながってしまう。with コロナを考えていかないといけないと思う。また、再開時期、対応について多くの意見交換のできる場を設けていただきたい。
57	コロナが1年でなくなるとは思えないので、はっきりとした感染症対策が出来れば活動が出きるのではないか。今のような曖昧な対策ではとても不安で活動は難しいと思われます。